

第16回FIPS国際スキーパトロール連盟総会報告書



XVI World Congress

April 21-28, 2007

Snowbird, Utah



2007年4月21日～28日スノーバードUSA

16TH FIPS 2007 ユタ州 スノーボード										
	4/21(土)	4/22(日) 曇りのち雪	4/23(月) 曇りのち雪	4/24(火) 曇りのち晴れ	4/25(水) 晴れ	4/26(木) 晴れ	4/27(金) 曇りのち晴れ	4/28(土) 晴れ		
6:30～7:00	16:00 集合 成田空港 第一ターミナル 南ウイング 結団式後 渡航手続き		6:30 朝食ホテルレストラン	6:00 朝食ホテルレストラン	6:30 朝食ホテルレストラン	6:30 朝食ホテルレストラン	6:30 朝食ホテルレストラン	5:00 起床 準備		
7:00～7:30		7:00朝食ホテルレストラン ①エド・カスマン(USA) 歓迎挨拶 スノーボードパトロール ②マイク隊長挨拶 日程説明 レンタルスキー合わせ		7:30 集合 ホテルより15分のクワッドリフト				6:00スノーボード発 ホテルクリフよりバス移動 7:10ソルトレイク着渡航手続		
7:30～8:00										
8:00～8:30			8:15集合ゴンドラステーション 各国ユニホーム着用							
8:30～9:00						8:40 ゴンドラステーション				
9:00～9:30	17:55 成田発UA852便		FIPS旗各国国旗掲揚 記念撮影 パトロールデモンストレーション スキー	雪上 ナショナルパトロール デモンストレーション(USA) 事故現場の対応・搬送 ヘリレスキュー・人工雪崩 FIS安全10則写真撮影 日本チームは オーストラリアチームと組む	9:00集合ロビーフリータイム		プレゼンテーション ①<ドクターによる骨折 についてのパネルディ スカッション> 休憩 ④<弁護士による法的 問題についてのパネ ルディスカッション> ⑤質疑応答	9:03ソルトレイク発 UA1177便		
9:30～10:00	集合 ゴンドラステーション 3,300Mトップより ゲレンデ案内スキー スノーボードパトロール隊				9:30ソルトレイクへバス移動 スキー組はスノーボード	雪上 雪崩レスキュー 雪上デモンストレーション パトロール隊 犬 ビーコン ゾンデ			10:18サンフランシスコ着 渡航手続再チェック	
10:00～10:30										
10:30～11:00		11:10サンフランシスコ着 昼食各自 空港内レストラン								11:23サンフランシスコ発 UA837便
11:00～11:30										
11:30～12:00										
12:00～12:30						12:10 昼食ホテルレストラン				
12:30～13:00		昼食 ホテルレストラン	昼食 ホテルレストラン	昼食スキー場内レストラン各自	10:20ソルトレイク着 市内見学 博物館教会など 昼食各自 ダウンタウンにて		昼食 ホテルレストラン			
13:00～13:30				写真選考プレゼンテーション ①<スキーパトロールトレーニング 認識>雪上での査定(1) Dr.リチャード・ヘムスワース(豪)休憩 ②<スキーパトロールからスキー 場のディレクターへ> ケイト・ハンター(イギリス) 休憩 ③<日本のスキー場と パトロールの現状> 上平尚(日本) ④<スノースポーツを扱う保険会社 としてのパトロールの重要性> 小林英記(日本)休憩 ⑤<スキーパトロールの認識> 雪上での査定(2) Dr.リチャード・ヘムスワース(豪) ⑥<FIS10のセフティール P・ペトロイ(スイス)>				4月29日(日)		
13:30～14:00		プレゼンテーション ⑥<手のけがについて> Dr.ジェイ・ホルムズ(スコットランド) ⑦<スキーヤーと汽車の事故> Dr.ポール・コンスタット (スウェーデン) 休憩 ⑧<ケルンタイズ>において トラウマ学上7年間の経験 Dr.ルーフィン・ガード(フランス) ⑨<脚下部のトリートメント> Dr.サンダー・ガード (スウェーデン)	15:15 ソルトレイク発					14:10成田着		
14:00～14:30			役員会議 ③ボードミーティング			16:10 スノーボード着				
14:30～15:00										
15:00～15:30	15:24 サンフランシスコ発 UA6360						プレゼンテーション ①<イタリア製のセフティ> ルカ(イタリア) ②<NSPナショナルスキーパトロール> マーク・リー(USA) 休憩 ③<スキー産業について> M.ペリー(USA) ④<スキービルでの窒素酸化物> サム・バーカー(豪) 休憩 ⑤<地球温暖化と山でのセフティ> Dr.ザオスキー・M・マックローイ リック・ヘッド(豪) 休憩 ⑥<病院から離れた場所でのファス トエドと患者のケア> リック・ヘッド(豪)	プレゼンテーション ⑧<リフトレスキュー> ヨン(韓国) 休憩 ⑨<スノースポーツと手の けがについて> Dr.チャン(韓国) 休憩 ⑩<スキーパトロール・チリ> C.マラグエーノ(チリ) 休憩 ⑪<第17回開催地 プレゼンテーション> マリ・ノーレン(スウェーデン)	15:20荷物受け取り 解散式	
15:30～16:00	乗り継ぎ ソルトレイクへ									
16:00～16:30										
16:30～17:00		プレゼンテーション ⑩<アメリカ東部における スキーの歴史> リチャード・ハムリン(USA) ⑪日程説明と挨拶 エド・カスマン(USA)								
17:00～17:30										
17:30～18:00										
18:00～18:30	18:12ソルトレイク着	18:00夕食ホテルレストラン	18:00夕食ホテルレストラン				15:30～18:00役員会 ③ボードミーティング			
18:30～19:00	ソルトレイク発バス移動									
19:00～19:30	19:20スノーボード着 受付			18:30夕食ホテルレストラン	18:30夕食ホテルレストラン		18:30夕食ホテルレストラン			
19:30～20:00	ホテルクリフ8F事務局 夕食 ホテルレストラン					19:00夕食ホテルレストラン				
20:00～20:30										
20:30～21:00	20:40チェックイン ホテルフロント 部屋割り					打ち合わせ ブルース リチャード会長 小林理事(坂井通訳)	19:30 ⑥閉会セレモニー			
21:00～21:30										
21:30～22:00										

④開催国代表挨拶 エド・ガスマン（USA） 〈7：30～7：40〉

FIPSの仲間がスノーバードにて集えたことを歓迎しうれしく思います。

皆様の滞在中、お世話をさせていただきます。何でもお気軽にご相談ください。日程表を配布してありますが、毎日変更があると思います。自然相手なので天候やその他の理由により変更のある場合は、支持にて案内をいたします。毎朝、レストラン入り口のボードを見てください。今回のミーティング用FIPSフリースのウェアを作りました。色は黒と茶色の二色。

一着45ドルです。FIPS参加者のみ 購入者は氏名とサイズをアン・ガスマンまで。

続いて、スノーバードのボスパトロール隊長マイクより挨拶があります。



⑤隊長挨拶—スノーバードパトロール マイク隊長— 〈7：45～8：00〉

スノーバードの開設は1971年アメリカのスキー場の中でもハードなスキー場の3本に入る。パトロールの常勤50名 週末パトロール35名 このほか元常勤パトロールだった人たちのボランティア活動もある。また、このリゾートはファミリーで経営している。

**ようこそ、スノーバードへ。期間中は何でもお気軽に声をかけてください。
ゴンドラ終点、ゲレンデトップのパトロール棟に常駐しています。**



© 開会ボードミーティング〈14:00~16:20〉



会長挨拶
歓迎の挨拶



各国代表紹介

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| ◆グレン・スィルロイ（オーストラリア） | ◆リチャード・シェリアー（カナダ） |
| ◆クラウディオ・マラゲーノ（チリ） | ◆デューク・ワシントン（韓国） |
| ◆ケイト・ハッター（イギリス） | ◆ルネティン・カドー（フランス） |
| ◆エミロ・ラモス（イタリア） | ◆小林 俊勝（日本） |
| ◆リッ・ブルックス（ニュージーランド） | ◆マリ・ノーレン（スウェーデン） |
| ◆P.パトリ（スイス） | ◆エド・ガスマン（アメリカ） |
| 欠席国 アルゼンチン スペイン イスラエル | |

会議次第



秘書による経過報告

- ◆スケジュール変更について
- ◆第15回フランス会議の報告



トレジャーからの報告

- ◆予算について、事務処理担当の2名にFIPSより若干の報酬を払ってはどうか。
・ボランティアでやってもらっているが激務である。



次回開催地について

- ◆17th FIPS 2009年はスウェーデン。（予定）
・18th 2011年は、日本で開催できないか。
・小林理事：日本開催を正式に受理。



各国報告事項

- ◆韓国 「第15回フランス・レザルク会場ではアジアからの参加が日本不参加で韓国のみになり非常に残念だった」。
- ◆日本 「2003年オーストラリア・マウント・ブラーに於いてアジア担当としての役を担受していながら、フランス会場を欠席したことをお許しいただきたい。韓国が再び参加してくれたことは嬉しいことであり両国で力を合わせ、中国への参加呼びかけを行ってまいります。日本のスキー場は全国的に雪不足で打撃を受けた」。

⑩アメリカ東部におけるスキーの歴史<16:35~17:30>

リチャード・ハムリン (USA)

解説をまじえながらフィルム上映

①アメリカのスキー場の歴史

②アメリカのパトロールの歴史

⑪日程説明と挨拶

<17:30~17:40>

エド・ガスマン (USA)

ホスト国として歓迎申し上げます。

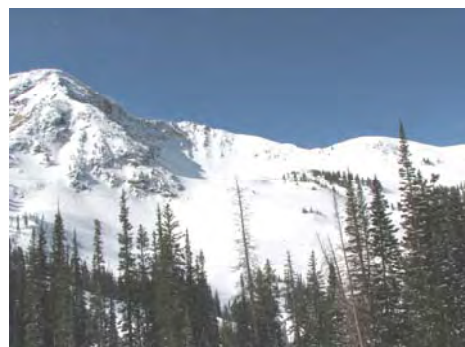
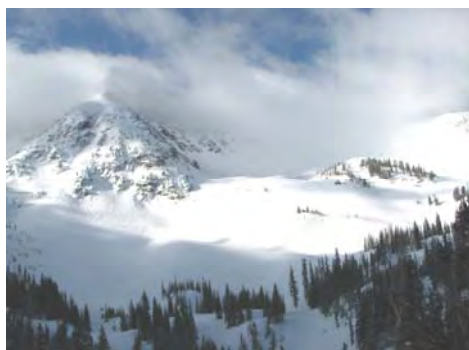
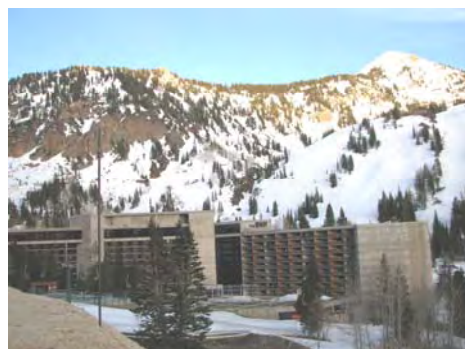
スキーパトロールは、人とナイフの関係に近い。

ナイフを信じることができたなら、ナイフによって命を助けることもある。

パトロールも人を信じ、それぞれを信用することによって関係が深くなる。

世界中のパトロールは一つの家族。

この機会に互いに関係よりを深めましょう。



⑦手のけがについて

〈14:00~14:40〉

Dr.ジェイ・ホルムズ（スコットランド）

- ◆ 手の構造は、骨・筋・腱が複雑に絡んでいるため 非常に複雑である
- ◆ けがの種類 《オープン クロス》
- ◆ まず調べること 《観る 聞く 触れる》
 - ・ どうして起きたか
 - ・ どこで
 - ・ 誰を
 - ・ 痛みは
 - ・ 腫れは
 - ・ 変形していないか
 - ・ 動かせるか
 - ・ 硬さは
 - ・ 切り傷があるか

- ◆ マネージメント 《処置 手当て》
 - ・ なるべく安全な場所で行う
 - ・ 痛みを少なくする（軽減）方法を考える
 - ・ ABC
 - ・ （運搬）



- ◆ ほとんどの腕のけがは次の2つが重要

- ・ 心臓より高く上げる
- ・ 固定

- ◆ けがが開放の場合

- ・ 止血
 - ★上げる（高揚）
 - ★直接抑える（ダイレクトプレッシャー）
 - ★搬送（運搬）



〔指の脱臼〕

戻せるなら戻す

健康な指と固定（バディストラッピング）

〔親指のつき指〕

固定

〔手首のけが〕

固定と早めの搬送（運搬）



予防が一番大切：予防に優る手当てなし
正しい用具のチョイス
サポーターを使う。

⑨ スキーヤーと汽車の事故について

〈14:40~15:20〉

Dr.ポール・コンスタッド（スウェーデン）

- ◆ 国民の1/4がスキーをする
- ◆ スウェーデンではスキーヤーと汽車の事故がある
（スキーで線路を横断することがあるため）
- ◆ 大切なこと
 - ・ すばやい判断！
 - ・ 何をすべきか？
 - ・ どこへ運ぶか？
- ◆ どんな患者も同等に扱う
- ◆ 患者のサイドに立って考える
（プロフェッショナルとして）



パトロールはIDカードを持っていて、そのID番号によって後から医者より情報聴受けることがある（ヘリレスキュー）

MRI：脳障害チェックは大切な通過点

アメリカコロラド州では、ヘリを呼んでも医療の一環であれば保険が利く

⑩ タレンタイズにおいてトラウマ学上での7年間の経験 〈15:35~16:30〉

Dr.ルースィン・カドー（フランス）

- ◆ タレンタイズの観光について
 - ・ 500,000ベッド数
 - ・ 各国からと特にヨーロッパ諸国からの観光客が多い
 - ・ 日曜日には10万人の客を迎える
（タレンタイズの人口も10万人）
- ★お客様10,000人に対してスキーパトロール13人の割合
- ★年間750人の患者がヘリコプターで運ばれる
- ★年間660人の患者がヘリコプター以外の手段で運ばれる
- 他に
 - ・ けがのタイプ けがの部位 その他をパーセントグラフにて発表

雪と天候のコンディション・テクニックとテクノロジー
スキー用具の進化を調査し
けがとの関連性を研究し続けていく。

①脚下部へのトリートメント <16:30~17:15>

ーコンパートメントシンドロームについてー

Dr.Jサンダー・ガード（スウェーデン）

◆ コンパートメントシンドロームとは

外部からの強い力による柔らかい組織のけが

★多くの場合骨折を伴う

★強い痛みがある

【事例】 高速スキー滑走中転倒「白人女性 30代」

＊ パトロールは

＊骨折としてのケア

＊固定

＊ブーツを緩める等の処置

＊ 2年後…患者は一部の皮膚の感覚を失った

彼女からのクレーム内容

＊パトロールの対応が遅かった

＊ブーツを脱がさず緩めただけだった

＊緩めた結果、腫れが起きた

＊救急車の揺れが強すぎた

（けがの後一時間以内に多量の内出血が起きる
一時間後からは＊内出血は減る
＊組織への圧力（内圧）が増す）

＊ トリートメント（手当・処置）

＊患者を横にする（けがの部位は10cm～15cm揚げる）

＊外部から圧迫

＊ブーツ等の締めつけを弱める（緩める）

＊特にブーツは脱がせた方がよい

OVIC SPLINT（オービック スプリント）

使用方法



①スキーパトロールトレーニングの認識 (14:00~14:55)

—雪上での査定(1)— Dr.リチャード・ヘムスワース(豪)

- ◆ オーストラリアのパトロールは世界でトップレベルのテクニックを持っている。

- ・ オーストラリアのパトロールトレーニングとは

- ★ファーストエイド
- ★スキートレーニング
- ★雪崩コントロール
- ★サーチ&レスキュー



以上のトレーニングをより多種類受けることによりレベルが上がる

【例】

ファーストエイドとスキートレーニングを受けたパトロール：レベル1

上記すべてのトレーニングを受けたパトロール：レベル2

- ＊スキーパトロールのトレーニングは

- 全豪の大学等教育機関で受けることができる

- ＊ファーストエイド
- ＊レスキュープログラム
- ＊リスクマネジメント
- ＊リーダーシップ etc.

- ◆ オーストラリアパトロールの歴史

- ◆ パトロールとして何をするか —目標—

- ・ パトロールはパトロールを継続することもパトロールの試験官になることも可能
- ・ オーストラリアには、パトロールを教えるインストラクターが60名存在する
- ・ オーストラリアでは、他国からのパトロールも受け入れている

他国からの人もオーストラリアパトロールのテストを受けて

合格すれば働くことができる

FIPSの存在により

世界中のパトロールのレベルが上がることを祈っている

⑫スキーパトロールからスキー場のディレクターへ（15：10～15：50）

ケイト・ハンター（イギリス）

- ◆ 自己紹介
- ◆ グレンシースキー場の歴史（パンフレットあり）
 - ・ 1930 設立
 - ・ 1957 スキークラブがTバー設置
 - ・ 1961 チェアリフト設置
 - ・ 1962 大々的に一般へコマーシャル
- ◆ オーナー時代
 - ・ 8シーズン中1シーズンだけ良かった。
↓
 - ・ 経営悪化・倒産
 - ・ 2004 リゾートを売りに出す
 - ・ 2004/6月 7人でスキー場のみを購入 ε 75000
スキー場 ビルディング リフト20基
グルーマー4台 トラック5台 etc.
 - ・ 2004/2005シーズン
12月～1月
可もなく不可もない状態
2月～3月
良い状態
45日間営業 36324名 集客
 - パトロールとしての報告
 - ※ 12月にトレーニング
 - ※ けが：143名 救急車：10名 病院行き：51名
 - ※ 裁判：1件（脱臼）
 - ・ 2005 カフェをオープン
 - ・ 2005/2006
早い初雪（11月初旬）
2月28日大雪
シーズン中 42460名集客
 - ・ 2007 34日間営業 8521名集客
 - ※ けが：29名 救急車：5名 病院行き：9名

①1 日本のスキー場とパトロールの現状 (16:00~16:30)

上平 尚 (日本)

◆ スキー場の推移

日本のスキー場は減少傾向にある

- 1995年 700箇所以上
 - 2007年 580箇所 (2007年2月調査)
-
- 1992年 新設スキー場あり
 - 2000年以降 休止届出が提出され始める

◆ スキー場経営が厳しくなり、パトロールの雇用状況にも影響が出る

その他・温暖化による雪不足

- ・パトロールの雇用期間の短縮
- ・少数雇用

なども雇用状況の変化の原因となる

◆ パトロールの現状

パトロールの資格認定は全日本スキー連盟が事業として行っている

試験を受けるための必須条件

- 1 日赤救急員の適任証を有するもの
- 2 1級以上のスキー技術を有する
- 3 受験者養成課程を修了したもの

試験では、理論および実技を行う

- ・ スキー傷害概論・スキーパトロール活動概論・スキー場管理と索道概論
雪上救助法・バックカントリー・冬山の気象・スキー用具
身体の機能と構造等の概論他・スキー運搬法・ロープワーク技術
等を通して、理論60点以上 実技70点以上が合格点となる
- ・ 登録パトロール数：3300名 (10年くらい横ばい)
毎年約100名のパトロールが誕生するが、登録者数は増加していない

資格を有したパトロールの活動状況〈3つのタイプ〉

- 1 スキー場社員として常勤・非常勤も含め経営者と共に安全管理の仕事に携わる
- 2 通常は都会で生活していて週末や休日を利用し、スキー場との連携の中でボランティアパトロールとして活動する
- 3 クラブに所属し安全なスキーのためのマナーやルールの指導・クラブの事業に率先して協力する

スキー場の減少はスキーヤーが減ったことや、
暖冬による雪不足が原因の一部と思われます。
地球の温暖化減少は世界全体で考えなければならないことであり、
リスクを抱えるスノーメイクも必要なエネルギー源はCO₂を排出し
悪循環を繰り返しています。
温暖化防止は、FIPS家族であり友である仲間を通じて
世界規模で考えていかなければならないと思います。
私たちが共有している自然環境は
私たちだけで食べつくしてよいものではなく
次の世代に受け継いでいくために大切に使いたいものです。
この会議での皆さんとの出会いは私の大きな財産です。
感謝します。ご拝聴ありがとうございました。



①2 スノースポーツを扱う保険会社としてのパトロールの重要性

小林 英記（日本）〈16：30～17：00〉

1972年以来SAJのアンダーライティングエージェントとして仕事をして
おります。日本の全国パトロール会議で案内していることを紹介いたします
日本のスキー学校の特殊性として全日本スキー連盟の公認を受ける
学校の機構の中で安全対策担当として公認パトロールが配置されています。

この点について保険会社はアンダーライティング上重要な視点を持ちます。

★ 最近の賠償事故の大多数

- 【1】スキー学校のインストラクターが一般客と衝突しての賠償事故
- 【2】スキー学校の受講生がレッスン中に発生する賠償事故
- 【3】スキーヤーとボーダーのマナー違反による賠償事故

★ 【1】【2】のケースは1シーズン10～20件前後発生している

回避する方法としてはスキー学校の管理体制の見直しが必須であるが、
スキーパトロールの立場からは助言・指導等が容易である

★ 【1】【2】以外のほとんどが【3】のケースでありスキーヤー・ボーダーに グレンデにおいて注意を喚起することができるのはスキーパトロールである。 上記のことからもわかるように、アンダーライティング上、保険会社にとって スキーパトロールの果たす役割は大きくなっている。 今やスキーパトロールなくして保険会社は成立しがたいといえましょう。

①M スキーパトロールの認識 〈17：10～17：25〉

—雪上での査定（2）—

DVD 1 オーストラリアスキーパトロールのテスト内容

DVD 2 スノーボードの新しいバインディング

⑩ FISセーフティルール (FISウェブサイト参照)

P・ペドロイ (スイス) 〈17:30~18:10〉

1996年に完成

- ★ すべてのパトロールが10のルールが存在を知っているが、誰もその意味を理解していない
- ★ パトロールの大切な仕事のひとつは、このルールを広く正しく伝えることにある
- ★ 意味の理解



1 他の人を尊重する

スキーヤー・スノーボーダーは他の人に迷惑をかける行為を慎まなければなりません



1 Respect for others

2 スキー・スノーボードのスピードコントロール

自分のスキースノーボードをコントロールしましょう。自分の技術を超える行動は慎まなければならない、また、スキーヤー・スノーボーダーとしてのマナーを守らなければいけません。地形の状態・雪質・天候の変化、混雑状態も見極めましょう。



2 Control of speed and skiing or snowboarding

3 ルートの選択

前方にスキーヤー・スノーボーダーがいる場合彼らに危険が及ばないルートを選ばなければならない



3 Choice of route

4 追い越し

スキーヤー・スノーボーダーが他の人を追い越す場合には相手がどのように動いても対応できるように十分なスペースを空けて追い越しましょう



4 Overtaking

6 コース上での停止

歩道に選択の余地がない場合以外スキーヤー・スノーボーダーは狭い場所や見通しの悪い場所で立ち止まることは、極力避けなければなりません。とまったら可能な限り早く移動しましょう



6 Stopping on the piste

8 サインやマークに従う標〈識・表示〉

スキーヤー・スノーボーダーは全てのサインおよびマークに従わなければならない



8 Respect for signs and markings

5 進入・スタート・上方に移動するとき

スキーヤー・スノーボーダーはマークされているコースに入る場合は、一時停止してからスタートしましょう。スロープを、上方に向かって移動するとき、周囲（スロープの上方下方）をよく確認して自分自身と他人危険にさらさないようにしなければならない



5 Entering, starting and moving upwards

7 登り・降り

コースを上ったり降りたりする場合はコースのわきを使いましょう



7 Climbing and descending on foot

9 アシスタント

事故を発見した場合には、全てのスキーヤー・スノーボーダーは手伝う義務がある



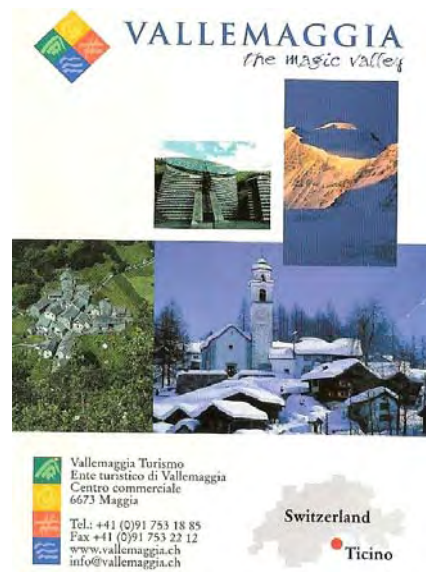
9 Assistance

10 確認・証明

事故の後関係した全てのスキーヤー-ボーダー、そして目撃者は当事者であるなしにかかわらず住所を交換しましょう



10 Identification



◎イタリア製のセイフティ 〈13:30~13:50〉 イタリア版安全対策

ルカ（イタリア）

- ◆ イタリア法 3631.2003（スキーパトロール法）
 - ★ 責任（スキースロープ、レスキュー etc）
 - ★ 諸々の準備
- ◆ 現在やっていること
 - 1 スキーリゾートマッピング
 - ※ リゾート全体を観察し、リゾート内に何があるか
（危険区域等を調べる）
 - 2 アクシデントマッピング
 - ※ アクシデントポイントの確認
レスキュー時のスピードアップのため
 - 3 統計
 - ※ デジタルデータベース
全ての情報をデジタルデータベースにいれすばやい対応がどこからでもできるように
 - 4 道具
 - ※ ファーストレッグ（足の固定具）
簡単に使える
けがをした足を動かす必要がない
持ち運びに便利
作りが単純なのでメンテナンスがいらない
強度が高い
 - ※ ルーシー（腕の固定）
脱臼等
簡単に使える
 - ※ リフティ（足のリフトアップに使う）
スプリントの取外しに使用
手で持ち上げるより痛みが少ない



⑨NSP—ナショナルスキーパトローラー— 〈14:50~15:15〉

マーク・リー (USA)

1 イントロダクション

2 目標・使命

- ★ プロフェッショナルオーガナイゼーション
- ★ スキーパトローラーの集まりで多くは（90％）ボランティア
- ★ 教育・トレーニング・サーチ&レスキュー・雪崩コントロール

501 C-3

- ★ ノンプロフィットの団体
- ★ 世界で一番大きなウィンターレスキューの団体

◆ ウィンターレスキューに関して

- ※ サーチ&レスキューを教える

雪崩のレスキュー

教育関係の仕事の人が多い

- ※ 何が大切か

ファーストエイド

運搬

雪崩コントロール

患者本人とパトローラー
一番必要なのは
「それ以上状況を悪化させない」こと

けがの状況

精神的な状況

両方の状況とも
悪い方向へは進めない

- ※ NSPのスポンサー

パタゴニア・スバル・スリー スミス・ヘストラ 等

- ※ NSPのパートナー

ナショナルスキーアソシエーション

- ※ 国内で12の部門に分かれる

- ※ パトローラー673人（年齢の平均は48歳）

NSPのメンバーは26,258人

パトローラーの内訳

パトローラー 66% シニア 22%

ヤンディデート 11% サーチファイド 1%

*シニア：パトローラーの先生

*サーチファイド：ファーストエイド 雪崩コントロール サーチ&レスキューなど何でもできるパトローラー

NSPのパトローラーはボランティアがほとんどだが何十ものクラスを無料で受講できる

EX ファーストエイド リフトエヴァキュエイト サーチ&レスキュー
政府からの補助金がないため、会員の会費、アパレルの売り上げ、テキストの売り上げ等で運営されている

②スキー産業について 〈15:25～16:00〉

M・ベリーー —NASS:ナショナルスキーエリアアソシエーション（USA）

- ◆ アメリカでは過去20年間の平均でスキーヤーの数が増加している

- ★ そのうち数年は客数が減少した年があるが主に少雪が理由

動向

- ★ ここ数年でいったい何が起きているのか？
 - ・ シーズンパスの売り上げ増加
 - ・ ベビーブームで生まれた人たちが退職してスポーツに費やす時間が増加
 - ・ スノーボードの増加
 - ・ スキー用具の進歩
 - ・ スキー産業がビギナーに注目し始めた
 - ＊ビギナー用の施設を造る
 - ＊ビギナー向けのサービスを開始
 - ・ インターネットでのプロモーション
 - ・ スキー客へのサービスを向上させた以上のことがスキー客増加の理由と考えられる
 - ★ 年令別に見ると
 - ・ アルペンスキーヤーの平均年齢が下がる
 - ・ スノーボードの平均年齢は変化なし
 - ★ 過去7シーズンの統計
- 産業として上昇
スキー客の年令幅が拡大「幼児から老人まで」

⑨スキーヒルでの窒素酸化物 <16:00~16:30>

サム・パーカー（豪）

◆ 窒素酸化物って？

- ★ ガス
- ★ ナイトロノックス（ニトロ+酸素）
- ★ ナイトロ60%+酸素40%の化合物
- ★ 1775年に発明
- ★ 笑気ガス的一种
- ★ 1800年代から医者・歯医者で使用されてきた
- ★ 体に作用するメカニズムは理解されにくい
- ★ モルヒネに近い働きをする
- ★ 1回~2回吸う

◆ コッパーマウンテンではどのように使用されているか

歴史 ニュージーランドに行ったパトロールがドクターフィルに提言



何年かのリサーチが12010フィート の高所にて行われた



救急救命士たちによって行われ続けた



1999/2000のシーズンに初めて現場で使用される。

供給者

マトリックス・メディカル・カンパニー

- ※ セットで2000USドル~2500USドル
- ※ タックの中身交換は15USドル

使用理由

- ※ 痛み止め
- ※ 特に患者の長距離運搬に使用できることが利点
- ※ 麻酔よりも簡単に使用できることが利点
- ※ 使用するまでにセッティングにかかる時間が30秒~90秒
- ※ 酸素の親等が高い
- ※ 麻酔は使用するのが難しい

使用可能な場合

- ※ 患者の痛みが徐々に強くなっていくとき
- ※ 外傷による痛みの 強さによって使用

使用してはいけない場合

- ※ 喘息
- ※ 腸傷害
- ※ アルコールおよび薬物を使用している場合
- ※ 妊婦
- ※ 心臓病 etc

高所で使用する場合

ナイトロ40%+酸素60%の割合にする¹⁹

* オーストラリアでは救急救命士によるトレーニングを受ければ誰でも使用できる

質疑応答より

ヨーロッパ諸国（UK・スコットランド・フランス等）ではエントロノックスが使用されている。これはナイトロと酸素がすでに50：50の割合で1本のボンベに入っており酸素マスクを繋げばすぐ使用可能となる。オーストラリアの窒素酸化物はボンベが2本に分かれており、その他のチューブを何本かつなぐ手間、加えてナイトロと酸素の割合をあわせる必要があるのでヨーロッパのパトロールからは自分たちの使用しているエントロノックスのほうが使いやすいとのコメントが続いた。数時間のトレーニングのみが必要となる。

* アメリカでは使用していない。

⑤地球温暖化と山でのセイフティ

〈16:40~15:20〉

Dr ザオスキー・M・マックローイ リック・ヘッド（豪）

◆ 地球温暖化

- ★ 1910年と比べて世界的に0.7℃上昇
 - ・ 過去420,000年の間でCO₂のレベルが最高になっている

◆ オーストラリアの温暖化

- ★ 1990年と比べて2030年までに0.4℃~2℃上昇する
- ★ 2070年までに1℃~6℃上昇する

◆ オーストラリアのスキー産業

- ★ 3. 1 ミリオンの集客（2005年） ※1ミリオン=100万
- ★ 1700種の仕事が毎シーズンオフアされる
- ★ 14. 6 ビリオンの収入 ※1ビリオン=10億

◆ 温暖化がパトロールに与える影響

- ★ シーズン初めに仕事がない
- ★ パトロールの募集ができない（降雪時期・量が不確定）
- ★ ボランティア以外のPAIDパトロールの収入源
- ★ ボランティアパトロールが必要になるか不確定
- ★ フルタイムパトロールも誰を選ぶかが難しい
- ★ 幸せではないスタッフ

◆ 雇い主の影響（スキーリゾート）

- ★ トレインパークを開くことができない
- ★ 少ないスタッフで営業するためスタッフ全員がオーバーワークを感じる
- ★ チームゴールが必要となる
- ★ トレーニングが増える ★ トランスポートが増える
- ★ 柔軟なスケジューリングが必要となる
- ★ パブリックのイベントのサポートを増す必要が出てくる

◆ お客様への影響

- ★ 危険箇所が増加（少雪のため地面が出る場所が拡大）
- ★ トレンパークが少なくなる
- ★ リフトに長い列ができる
- ★ 少雪によりけがが増加：スキーではないけがも
- ★ スキーヤー・スノーボーダーはスピードを出せない（よい影響）
- ★ 危険箇所数が増えるが混乱を避けるためサインの数は増やさない

◆ フォルリーク病院の説明

- ★ 歴史 設備・ロケーションの紹介
- ★ 2006年の状況：少雪で雪上から病院のアクセスがなくなりトランスポートに時間がかかった

◆ ビジター数の変化

	2005	2006	%
総 客 数	365,000人	290,000人	▲ 20.5%
病院へ行った人	2,211人	2,016人	▲ 8.8%

◆ けがの理由

- ★ 人工雪の質の変化
- ★ トレンパーク
- ★ 暖かい気候
- ★ スキーヤーとスノーボーダーのマナーの低下
- ★ 少雪のためスキーを早目に切り上げ、早い時間から酒を飲む人が増加

①病院から離れた場所でのファーストエイドと患者のケア

リック・ヘッド（豪）

〈17：30～18：20〉

- ◆ リックのリゾートでは
 - ★ 病院まで2時間
 - ★ アドバンスケアが必要
 - ★ パトロールがアドバンスファーストエイドを行う必要がある
- ◆ 何をするか
 - ★ 気道確保 吸引 酸素 CPR
- ◆ 患者のアセスメント
 - ★ 基本的な事項
 - ★ 痛みの度合い
 - ★ けががどのくらい深刻か見極める
- ◆ トリートメントマネージメント
 - ★ Cカラー - 脊椎固定 - AED
 - ★ 痛みのコントロール
- ◆ 薬
 - ★ エピペン・酸素・アスピリン・グルコース・エントノックス
アンジナイン（GTN）
- ◆ その他
 - ★ コミュニケーションスキル
 - ★ 救急車の手続き
 - ★ ヘリコプターでの救助の手続き
 - ★ 家族への対応
- ◆ ディスカッション
 - ★ 各国への対応は？
 - ★ 各国の可能な手当ての違い

⑩ドクターによる骨折についてのパネルディスカッション

パネラーとしてイタリア・カナダ・アメリカ・オーストラリア・フランスの5名のドクター

〈8:00~9:00〉

パトロールが牽引すべきか

《賛成反対のディスカッション》

- ★ 副木の歴史
- ★ 最近の副木
- 例) ① ファーストレッグ — 骨折した形のまま固定可能
- ② QVIKスプリントはひとつの道具で3種類の使い方
 - a マットレスだけ使用
 - b マットと固定具
 - c 上記のものと牽引器

プレホスピタルケアでは対応するけど・使用する器具の選択が難しい

- ★ パトロールが牽引をやめるべきけがの部位・状態

- ・ 子供の変形骨折
- ・ 脱臼
- ・ 腰や膝の関節
- ・ 不完全骨折

※足首には使用可

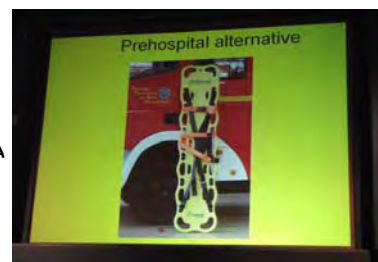
- ★ 牽引を使うべきとき・状態

- ・ 固定具だけでは固定できない、もしくは十分でない時
- ・ 複雑骨折
- ・ 患者がかなり痛みを訴えている場合



ディスカッション

- ・ 出血している場合
- ・ コンパートメントシンドローム
- ・ 神経と血管は？
- ・ 法的な違いは？



- ※ 腕の牽引はパトロールもやるべき
- ※ 客の場合は難しいのではないかな

⑦弁護士による法的問題についてのパネルディスカッション

R・ジョンソン A・モーガン ホンデス

P・ジュディ：裁判官 E・ガスマン 〈9：10～11：20〉

滑りやすいスロープでのナビゲーションバーモントのスキー場で—

- ★ スキー用具の進化で果たしてスキーヤーは幸せになったのでしょうか？
自分のテクニックに関係なく限界がどんどん遠くになって行きます。
その結果いくつかの弊害が出てきています。
- ★ マウントマンスフィールド（リゾート）について
 - ・パトロールの技術はヨーロッパから
 - ・地形の説明等
- ★ 用具の進化によって起きた事故はいったい誰の責任？
- ★ 州法のベースは全米で同じだが裁判官とジュリーによって結果が大きく変わるのが現状
- ★ スキーエリアの責任
 - ・不法行為：法的に補償請求ができる
 - ・州の法令・法規は国の法律によって修正される
- ★ 一般法
 - ・固定された法ではなく変更可能
 - ・事実と法令によって変わることもある
 - ・新しく出てきた法令によって原理が変わる
- ★ 事故が起きた場合
 - 1 全ての責任はスキーエリアにあるか？
 - 2 その場合あらかじめエリアがスキーヤーに忠告をしていたら？
 - 3 スキーヤーの怠慢はどうなるのか？



例えば、スキーヤーが自分の意志でスキーを履いたとしても、事故が起きたとき当然全てが彼の責任になるわけではない

1978年のサンデとストラトンマウンテンのケースでは、グルーミング時にトレイル上の全ての邪魔になるものはどこかされなければスキー場に不利になることがわかった

エステート フラントのケースで学べたことは

「昨日のリスクは今避けることができる」ということ

- ★ ここではまた責任の所在の話になるが、スキー産業も他のビジネスと同様に、スキーヤー（利用者）にも責任を負わすべきなのだろうか？

- ★ 将来的には
スポーツの多様化によって法も変えていく必要が出てくるであろう

アメリカでの論争はどう働くか

- ★ コロラドではリクリエーション上でのけがはよほどのことがない限り
本人の責任となる
※法律が今の時代に合わなかったら世の中の進歩（いろいろな意味で）
に合わせて法を変えなければならないであろう



スキーパトロールとして働いて

- 1 本人がけがをした場合、家族は守れますか
- 2 雇い主はどう考えているのかしっかり確認していますか

◆ここでスキーヤーの責任についてコロラドのケースを例に考えて見ましょう

例) スキーヤーが高速で滑っていた
↓
転んだ後、ギャップで飛ばされる
↓
別の人に当たりその人を殺してしまう
↓
結果は90日の実刑 3年の執行猶予

ここで大切なのは

「スキーヤーはもっと自分の責任について考えなければならない」
ということである

◆ミシガン州の例

・グロースナグリジェント

例) 患者を見つけた（発見した）ときよりも悪い状態にした
（努力を怠ったため）



↓
この場合は雇い主を訴えることができない
雇い主の行動の中にグロースナグリジェントがあった場合
↓
雇い主を訴えることができる

◆ コントラクト（契約）の重要性

例) ある人がアイスホッケーを観に行った
 ↓
 パックが当たってけがをした
 ↓
 この場合訴えることはできない
 なぜならアイスホッケーのチケットの裏にはこの場合（パックがあたる）
 責任は負わないと書いてあるから
 ※全て契約・約定となっていればその責任は文章に書かれて
 いるとおりになる

パトロールの警察としての権限について
 ・近年アメリカでは警察権を持ったパトロールが増えている
 ↑
 パトロールの立場だけでは対応できないケースがおきているから

近年多く起きている問題
 スキー場の雇用者が多国籍化している
 言葉の問題が起きる

例) リフトの緊急停止をパトロールが英語で指示をする
 ↓
 リフト係りが英語を理解できない
 ↓
 事故につながる（実際にあったケース）

世界共通のスロープでのサインが必要
 ※上記の場合罪に問われるのはスキーエリア

※法律もバランスが重要

楽しむ権利を守る ↓ バランス 危険行為を罪にする

ある州では 例) パトロールが患者を運ぶためにスノーモービルを使う場合彼は
 法的に保護されていますが修理屋が急いでリフトを直しに
 行くためにスノーモービルを使っても法律で保護されてはいません
 パトロールが患者なしにスノーモービルを使っても法的保護
 はないのですこれが必要性和法律のバランスを保つ難しさです

必要性 ↓ バランス 法 律

⑦ 質疑応答《各国の法事情》

〈11:30~12:25〉

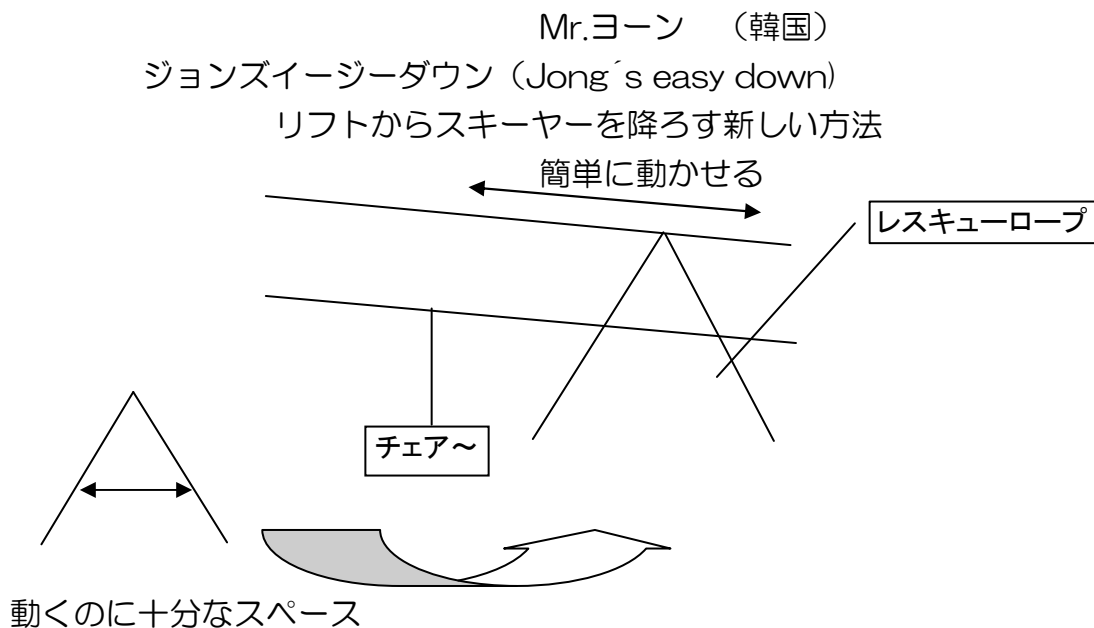
各国から今のスキーに関する法律・レギュレーション（法規・規則）の報告

- *スウェーデン スキー法はない
- *韓国 スキーパトロールが裁判所に行きレポートすることがある
- *スイス スキー法はない
- *イギリス スキー法はない
- *日本 サインが読めず立ち入り禁止に入った例などを説明
スキー法はない
- *カナダ 法律ではないが規則がある
- *USA 州によって違う
- *イタリア 2003年に規制ができた

スキー場がやらなければいけないこと
 用意しなければいけない道具 などの規制が
 あり、それに反するとスキー場が罰せられる

⑧1 リフトレスキュー

〈14:00~14:20〉



そのほかの新しいイクイップメント（装備器具）

- ・トボーゲン

24kg コンパクトになる
 上半身起こしたままで使用可能
- ・クイックスプリント

② スノースポーツでの手のけが 〈14:25~14:50〉

Dr.チャン (韓国)

- ◆ 近年足よりも手のけがが増加
スノーボードの増加による
 - ・ゲームキーパースサム
 - ・スキヤーズサム

*7172人のけが(12年間)



3,093,677人のスキヤヤー

凍傷：まず寒い環境から離れる

急に温めない

手術：時間を置く(どの程度広がるかわからないから)

例) 1月に凍傷→7月に手術

凍傷は外部の影響によって起きるので、骨の組織はなるべく残します

韓国のスキー場

- ・13~18のリゾート
- ・13~18のリゾート1000~1600mの高さ
- ・あまり高地ではないのでスノーメイクをしなければならない
- ・統計



⑤スキーパトロール in チリ <15:00~15:30>

C.マラグエーノ (チリ)

歴史

- * 60年前にアメリカをモデルに始まった
- * スキー場はロバをリフト代わりに使っていた

※スキーパトロールの数：ボランティア150名（2007年現在）

- * ユニフォームの説明
- * スキー場の比較
 - 1 LA PARVA
 - 2 EL COLORADO(一番大きい)
 - 3 LLAIMA
 - 4 VILEARRICA

&more

チリ全体のスキー場でコースが色分けされている

GREEN 初心者

RED 中級

BLACK 上級



②第17回開催地 プレゼンテーション <15:40~16:20>

2009 FIPS

開催地 スウェーデン 会場 ARE <オーレ>

- * リゾートの説明

スキーコース

ホテル

町の様子

- * アクティビティ <カヌー・犬ぞり etc.>

- * FIPSでの彼らの活動紹介

- * アクセス



④ボードミーティング〈15:30~18:00〉

4つのミーティング

a.現委員ミーティング

日曜日のミーティングの続き

新しい準会員 2005アメリカ3地域

b.通常ミーティング

会長の報告

監査役による確認

c.選挙

委員任命の手続き説明

委員選挙

次期会長選出

d.07-09新役員ミーティング

新会長任命

役員任命

第17回・第18回会場について

第17回会場 2009年 スウェーデン

第18回会場 2011年 日本開催決定

財政・料金

事業報告

事業計画

小林理事挨拶

はじめに2009年FIPSスウェーデンでの総会に多くの国からの参加と盛会をご祈念申し上げます。

今回の開催国、スノーボード会場は、素晴らしい運営をなされました。アメリカのようにはできないかもしれませんが、2011年日本開催のご決定いただいたことを、光栄に存じます。

今後、ミーティングをしてご指導いただいたことについて、条件、開催会場、時期等について、メールで会長と連絡を密に取ってまいります。ご指導をよろしくお願いいたします。

⑤閉会セレモニー 〈19:30~21:00〉

**第16回ホスト・サポート・スノーボードスキー場
クリフロッジリゾートに感謝**

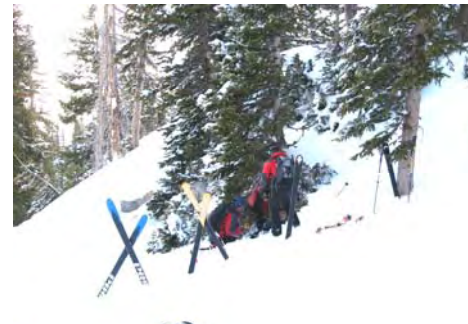
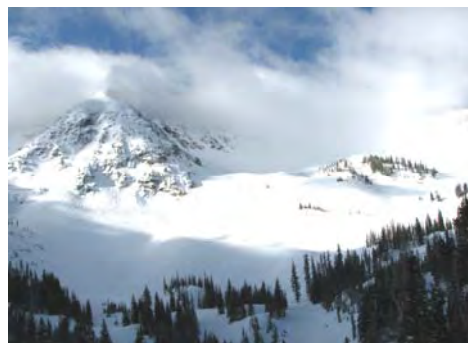
ゲレンデ案内



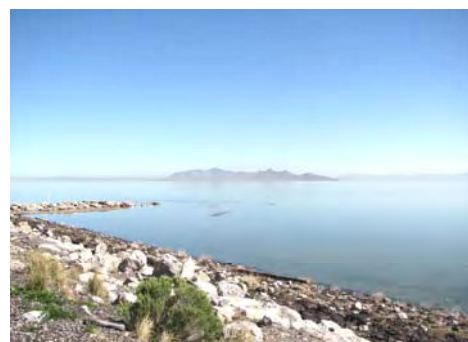
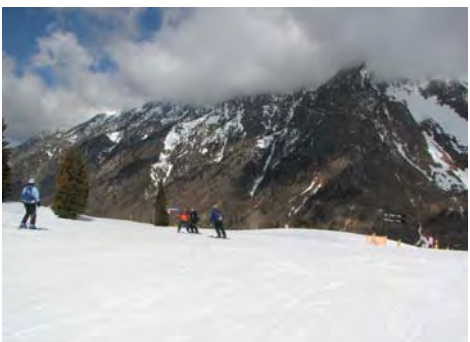
各国ユニフォームを着用して記念撮影



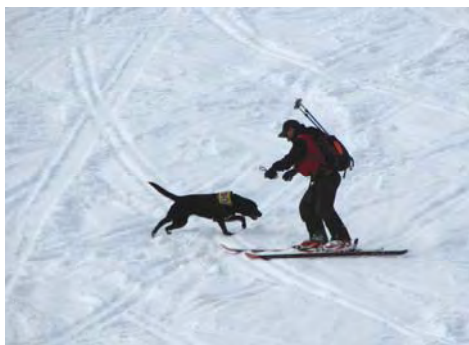
山岳レスキュー・ヘリによる救助



スキーとソルトレイクの日



雪崩救助デモンストレーション〈ビーコン・ゾンデ・犬〉



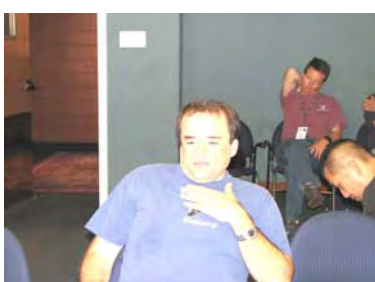
人工雪崩



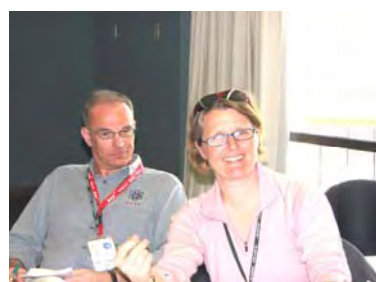
各 国 メンバー



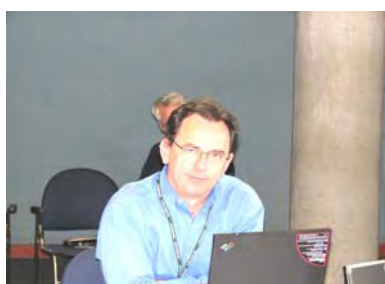
グレン・スィルロイ(豪)



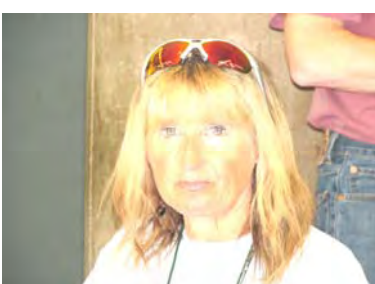
クラウディオ・マラグエノ(チリ)



ケイト・ハンター(イギリス)



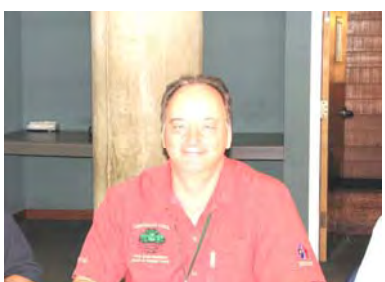
エミロー・ラモス (イタリア)



リン・ブルックス
(ニュージーランド)



P.ヘドロイ (スイス)



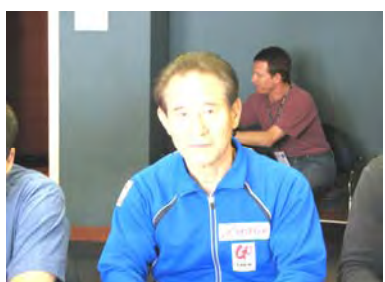
リチャード・シェリアー
(カナダ)



デューク・ワンチャン
(韓国)



ルースィン・カドー
(フランス)



小林 俊勝
(日本)



マリー・ノーレン
(スウェーデン)



エド・ガスマン
(アメリカ)



派 遣 団

団 長 小林 俊勝 理 事〔教育本部副部長〕
総務・発表担当 上平 尚 専門委員〔安全対策部 パトロール委員長〕
片倉 善文 専門委員〔安全対策部 プロモート委員長〕
通 訳 担 当 坂井 公淳 国際渉外スタッフ
…以上SAJ派遣…
発 表 担 当 小林 英記 〔SAJスキー安全会担当〕
〈あいおい損害保険(株)・東京海上火災(株)〉

2007年FIPS総会の内容について報告書を作成いたしました。

各国の発表・役員会での会議の内容は通訳を介して記録をとり、その日のうちに翻訳し、まとめました。

特に今回は、アメリカのエド・ガスマン氏やブルース会長に多大なご協力をいただきました。また、通訳の坂井さんには、会議以外の時間まで発表や報告書の作成のための翻訳にご協力いただきました。限られた時間の中で作成いたしましたので十分でないところもありますが、お許しください。 終わりに、

参加各国のメンバーと、ホスト国の関係各位に、

心から感謝し報告いたします。

平成19年5月

2007 FIPS

報告者 総務担当 上平 尚



Fédération Internationale
Des Patrouilles de Ski
International Federation
of Ski Patrols



XVI World Congress

April 21-28, 2007

Snowbird, Utah